



能登半島地震からの空間的復興の論点

東北大学災害科学国際研究所
空間デザイン戦略研究分野
姥浦道生



複合型被害・復興

- 人口減少地域における災害復興 → 東日本大震災、中越地震、糸魚川大火
- 市街地の地震災害からの復興 → 阪神淡路大震災、熊本地震
- 過疎地域の地震災害からの復興 → 中越地震
- 市街地火災からの復興 → 糸魚川大火、阪神淡路大震災
- 津波災害からの復興 → 東日本大震災



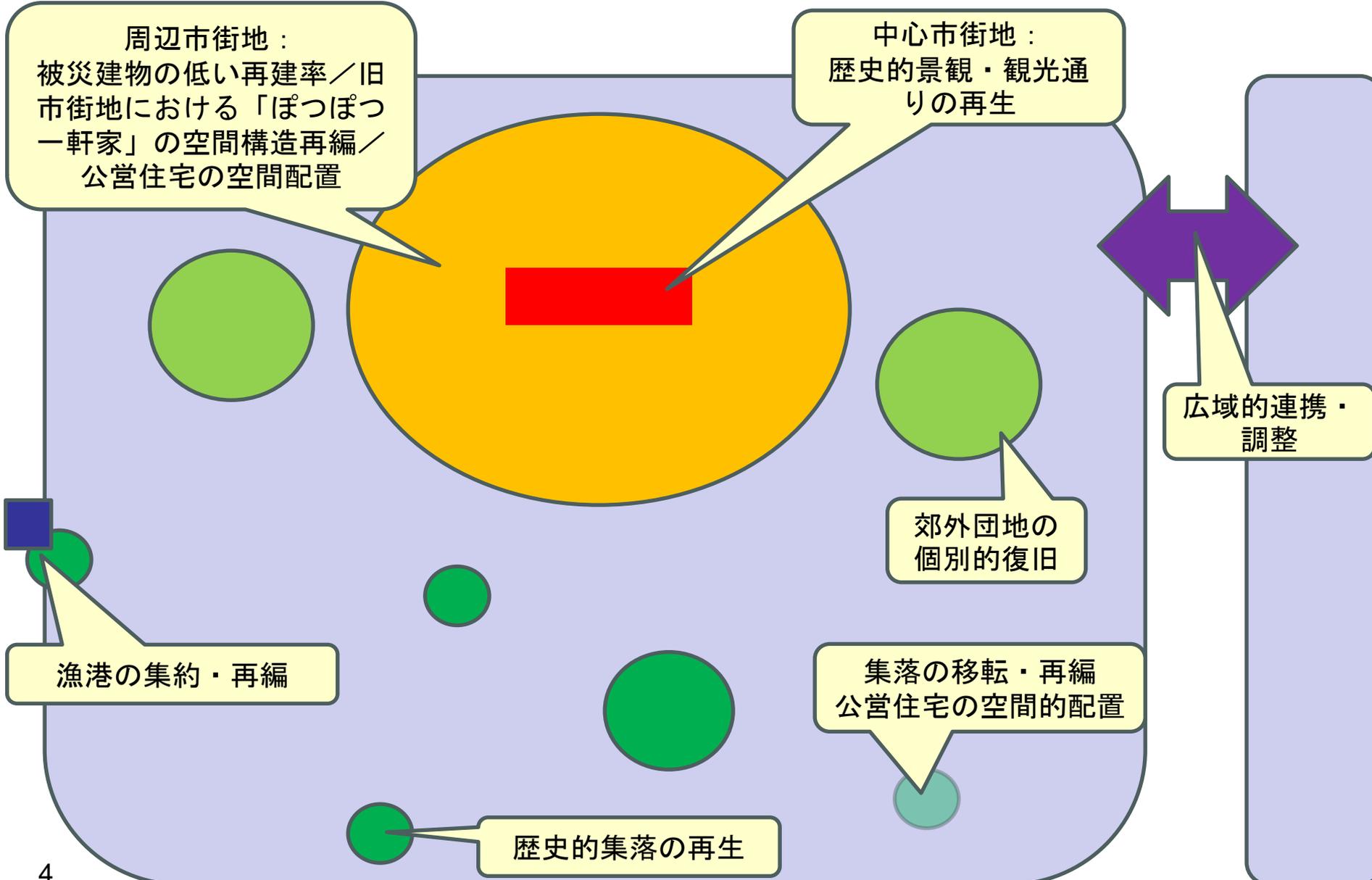
- これまでの復興の知恵／平時のまちづくりの知恵を総動員した復興が求められる
- 「知恵の地域への適用」はすべて個別的条件により具体化



被害の状況

- 中心市街地全般に広がる古い木造住宅を中心とした被害
 - 産業・生活のコアとなるべき中心市街地（古い木造住宅により形成）が広く被災
 - 火災被害も一部あるが、解体の進行に伴いそれ以外の市街地も同様の状況になることが想定→「ぽつんと一軒家」ほどではないが「ぽつぽつ一軒家」市街地化
- 集落部にも広がる被害
 - 集落部（多くの家屋は旧耐震）にも被害建物
 - ただし「全滅」ではなく部分的に
- 郊外住宅団地は比較的被災程度が小さい
 - 「盛り土」問題はみられる
 - 中はスカスカ、外は埋まっているドーナツ都市が生まれる可能性
- 津波被害は一部集落に限定的
 - どのように空間計画において津波対策を行うか？
- 産業
 - 商業：上記と平行
 - 漁業：液状化＋地盤隆起に伴う漁港施設の被害
 - 農業：地盤被害に伴う農地・用水路への被害

主な計画課題のポンチ絵



(単なる復旧ではなく) 時代を先取りしたビジョン

人口減少への対応

(減少幅の削減+
減少への適応)

早期のビジョン打ち出しと
「冷静な」計画
「人の復興」に対応した
「街の復興」
「利用」を基本とした復興
集落の集約化
適切なダウンサイジング

街の魅力の最大化

街の魅力の掘り下げ
総合的計画・事業実施
早期の産業再生
空地の積極的計画
「地域自治」「エリマネ」

時間軸

住民意見の計画化・調整
(合意形成)

広域的連携・調整

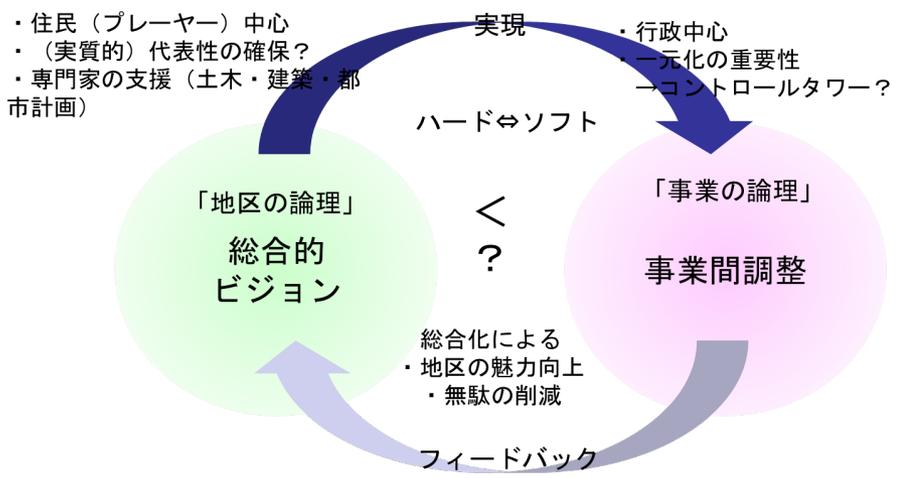
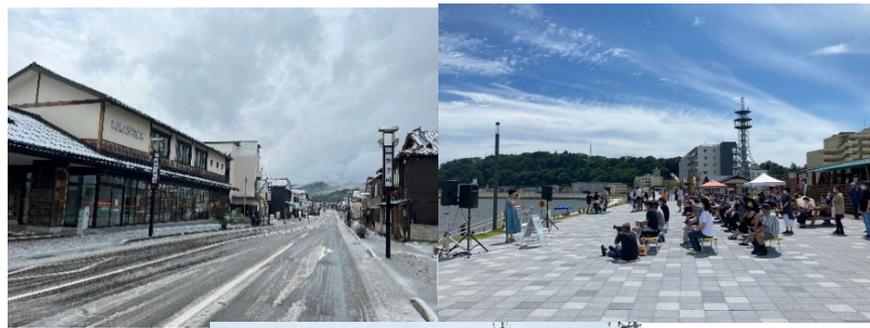


中心市街地

- 「残すもの」と「新しくするもの」
 - 何が地域の資源か？
 - (ハードについては) 道・建物・両者の関係のうち、何を残し、何を新しくするか？
 - 場合によっては市街地全体の空間構造再編とも絡めて

- 産業（特に商業）との連動
 - 利用・運営意向に基づく商業施設の集約化による街の骨格の形成？
 - エリアマネジメント？

- 時間軸を含めた計画
 - 仮設店舗（朝市は言うまでもなく）による産業の再生
→本設までのハード・ソフトのストーリー





周辺市街地

- 市街地内の空地の発生・予防
 - 市街地内に民有空き地が多数散在（「ぽつぽつ一軒家」化）することが見込まれる
 - 民有空地利活用の重要性（“拡大・スカスカ同時進行”状況の防止）
 - 「建て起こし」推奨の重要性

- （公営）住宅の市街地内立地？
 - 再建住宅（公営住宅）の集約化？分散化？
 - 集約型マンション形式？～分散型民有地公営住宅？（2007年輪島方式）

- 低密市街地の積極的空間像？
 - 難しい単純な集約化（⇔東日本大震災）
 - （粗放的）利活用まで含めて総合的に計画できるか？
 - 「ぽつぽつ一軒家」市街地の積極的空間像はあるのか？：ランドスケープ？粗放的公園化？宅地（市街地）とのリンク？
 - 実現手法？



集落部（農山村・漁村）

■ 集約化？

- 自治体レベルの必要性？集落レベルで移転集約化を希望する場合も？

■ どこにどのように集約化するか？

- 一極集中？旧町村ごと？どの単位で？（地域における「地元感」／都市計画的要請／住宅管理効率性・・・との関係で）
- 公共サービス提供（公共交通等）レベルに差異を設けることと一体的に
- 産業との関係性：特に漁港／漁業
- 公営住宅整備場所ともリンク

■ ゼロイチではない「移転集約化」

- ソフトとの組み合わせが重要：「通り農業」「地域文化の継承」等と組み合わせつつ

■ 丁寧な計画策定の必要性

- 意向の計画化・調整・支援
- 集落単位（どのレベル？）での意向調整に対する支援？
- 集落レベルのエリアマネジメントとの連動：地域まちづくり

